

工程を視察

実施に向けて

前澤給水工業株式会社で2回目となる実地視察を行つに「水道メータ」が追加されることを受けたもの。委員見学、その後の質疑応答にも力が入つていて(関連記事は、今後審議検討にいろ)

方、メーター一次側の多くは事業体が管理している。これに関する議論もさまざま。そのような中、製造現場をご覧いただくことは、今後審議検討にいろ



久保田所長



尾崎社長

調査清掃協

新型機械で研修実施

が受講人

ライセンス累計250人に

日本水中口ボット調査清掃協会(濱田義幸会長)は7~8日の2日間、熱海市内で平成23年度技術認定講習会を開いた。約40人が参加する中、原純理理事によ

る水道事業の概要、塩田真輔理事による作業手順、施工時のトラブル事例と対応に関する講義に加え、特別会員である東京都市大学の長岡裕教授が「最近の浄水現場研修も行った。

また、新規協会員のアクエンジニアリングが開発した新型の水道調査清掃ロボット「ザリガニくん」についてプレゼンテーションを行った。

同協会では施工品質を確保するために同講習会を開催する。受講者にフレームについて、協会の特記仕様書でライセンス取得者による施

工を義務付けている。講習終了後には、受講者がフレームの最新動向、管内における講習会で同社製品・技術が使用されている。これまでの常識を転換する新しい環境技術・サービス、企業間連携地

可能性を指摘し、浄水処理の最新動向、管内における講習会で同社製品・技術が使用されている。これまでの常識を転換する新しい環境技術・サービス、企業間連携地

原因などを解説。今後の配水池には、残留塩素低減の防止機能が求められる一方、緊急時水槽としての役割も求められるため、滞留時間を見やすくなるといく方針だ。

長岡教授は、「浄水処理が下流の濁度に影響を及ぼす

前澤給水工業株式会社で2回目となる実地視察を行つに「水道メータ」が追加されることを受けたもの。委員見学、その後の質疑応答にも力が入つていて(関連記事は、今後審議検討にいろ)

いふと参考にできるところがあるかと思う。弊社では近隣住民にさらに配慮した最新設備も導入しており、「ぜひご覧いただきたい」と話した。

続いて日本水道協会の久木、検査工程を視察した。

水道メータの部品構成、製造工程の説明を受けた後、委員は工場内へ。下

り、温度や湿度も感じ取り、最適な铸込みを行っているなど現場感覚あふれる説明を行った。铸込みについて、尾崎社長から「長年携わっている熟練者が、その日の

までの経緯を紹介した。水道メータの部品構成、製造工程の説明を受けた後、委員は工場内へ。下り、温度や湿度も感じ取り、最適な铸込みを行っているなど現場感覚あふれる説明があつた。

この後、検査合格品への基準適合認印付けから出荷検査、梱包に至る出荷までの工程を見た後、質疑応

じこには、口径13~25mm

メータの自動検定装置が置かれており、器差本検査と器差下検査(社内通水検査)を実施している。下検査は本検査よりも厳しいといふ。口径30~40mmに閉じては、基準タンクの水を通じて指針を読み取つておる。

最後に、水道メータの形状・寸法の規定を統けてほしいとの意向だった。そこで、道メータを認証項目に追加することとした」とこれ

までに、水道メータの形状・寸法の規定を統けてほしいとの意向だった。そこで、道メータを認証項目に追加することとした」とこれ

までに、水道メータの形状・寸法の規定を統けてほしいとの意向だった。そこで、道メータを認証項目に追加することとした」とこれ

までに、水道メータの形状・寸法の規定を統けてほしいとの意向だった。そこで、道メータを認証項目に追加することとした」とこれ

までに、水道メータの形状・寸法の規定を統けてほしいとの意向だった。そこで、道メータを認証項目に追加することとした」とこれ



新型口ボットの説明を受ける参加者

エコプロに出展

12月15日より

メタウォーター

メタウォーター(木田友康社長)は12月15日から3日間、東京ビックサイトで開催される「エコプロダクツ2011」(主催=産業環境管理協会など)に、昨年に引き続き出展する(小間番号5-1008)。

エコプロダクツ2011は、消費財や産業資材、エネルギー、金融、各種サービスまで、あらゆる分野のエコプロダクツやサービスが、出展対象。低炭素社会を目指す、これまでの常識を転換する新しい環境技術・サービス、企業間連携地

域連携など、問題解決につながる新しいビジネスモデルを展示する。また、関東地域の児童・生徒約2万人を対象として授業を実施し、環境教育の場として活用するほか、親子や家族で

も楽しめるコンテンツを用意するなど、低炭素ライフスタイルの近未来を楽しく実感できる内容。

同社は、安全で安心な水道水を提供するための技術開発や、使った水を清潔に処理する地球環境に配慮し

た下水処理技術の研究を長年続けており、現在、国内各地の浄水場や下水処理場で同社製品・技術が使用されている。

水に恵まれているわが国ではあまり認識されない

サーキュレーション水洗便器は、水洗便器のさらなる活躍に期待を寄せた。

また、来賓あいさつで熱海市上下水道温泉部水道課の佐藤光俊設営長は、泉課の佐藤光俊設営長は、「熱海市には地形の関係上、約140池の配水池があり、1層式の配水池も相当数ある。ロボットによる清掃は当市にとって有意義だ」などと述べた。